2024 年 5 月 31 日
子ども学科
福嶋真郷

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任

2023 年度の担当科目一覧表

科目区分 （教養／専門／教職）	科目名	種別 （必修／選択）	開講時期	受講者数
教職	教育相談	教職必修	2 年前期	20
教職	特別活動・総合的な学習時間	教職必修	2 年前期	14
教職	教育実習(事前事後指導1単位を含む)	教職必修	2 年前・後期	15
教職	教育実習事前事後指導（栄養教諭）	教職必修	2 年前・後期	4
教職	生徒・進路指導論	教職必修	1 年後期	18
教職	生徒指導論（栄養教諭）	教職必修	1 年後期	5
教職	特別活動・総合的な学習時間（栄養教諭）	教職必修	1 年後期	5
教職	教職実践演習(中学校)	教職必修	2 年後期	15
教職	教職実践演習（栄養教諭）	教職必修	2 年後期	4
専門	保育基礎 1	必修	1 年前期	32
専門	保育基礎 2	必修	1 年後期	32
専門	ゼミナール 1	必修	2 年前期	6
専門	ゼミナール 2	必修	2 年後期	6
専門	子ども理解と教育相談	必修	2 年後期	39

*科目区分：「教養」，「専門」，「教職」の 3 つから指定すること。

*種別：「必修」，「選択」の 2 つから指定すること。なお，選択必修は「選択」とする。

2. 教育の理念

大学教員としての私の役割は，単に中学校教諭，栄養教諭，幼稚園教諭，保育士資格という免許資格の取得に向けた学びに止まらないことである。義務教育 9 年間と，その土台をつくる幼稚園，保育所 の教育・保育について，特に「人間性」教育という一筋の流れがあることについて，学生に働きかけていくことにあると信じている。学生に様々な思考実験を重ね，それを柔軟に自らの実践に結びつけられるようにしたい。そのための私の基本的な教育の理念は，次の 3 つである。

（1）私の専門領域である教育経営学を中心として，教育学の中での「人間性」に関わりのある生徒指導，教育相談，特別活動・総合的な学習の時間における知見を広く紹介し，学生が柔軟に教育の方法としての実践的な課題解決に役立てられるよう手助けする。　（2）教育における「人間性」という規範的な命題が，既習のものとして認識されたり，逆に崇高なものとして届かぬ命題となってしまうのを避けるため，実際に起こっている教育現場での営みを適宜事例として出しながら，学生が実感をもって捉えてくれるよう働きかける。　（3）教育者・保育者としての実践に

おいて，その「人間性」の原点は，大学教員として受講者である学生に公平，平等に接することであり，学生個々の環境，状況にも配慮する教育実践を行う。

3. 教育の方法

いずれの授業科目においても，先に述べた教育の理念にしたがって，教育における「人間性」を意識しながら，私の専門分野の知識のみならず，広く教育学の研究から得られた成果を学生に紹介することにする。同時に学校現場の先生方の生の声を定期的に聞き取り（研究団体の研修会に参加する。)、実際的実践的な知見を紹介する。また，授業には常にアクティブラーニングを取り入れ，学生の主体的な学びを中心に置き，教師の一方的な講話に終わらないようにする。

アクティブラーニングの中心はグループワークであるが，単なるグループでの話し合いに終わらないように，質の高いワークとなるように工夫する。そのためには何らかの形で質疑応答の機会を設け，私と受講生とのコミュニケーション，受講生同士のコミュニケーションを図っていく。

このコミュニケーションによって，私自身が受講生のコミットメントの状態や理解度を知ることができる。また，受講生にとってもそれまで自らが抱いていた理解とは異なった理解に至ることが期待できると思われる。なお，私が受講生とコミュニケーションをとるにあたっての留意点を示すと，以下のようになる。

(1)随時受講生からの質問を受け付ける。　(2)受講生の発言内容が特定の知識に偏っている場合，相容れない知見をあえて提示する。　(3)受講生が多い授業の場合，授業に対するコミットメントが低下していると思われる受講生や，教師側を注視しているなど，質問や意見がありそうな表情をしていると思われる受講生に質問や意見を促す。　(4)受講生が少ない授業の場合，個々の学生にプレゼンテーションを課し，質疑応答を丁寧に行う。

成績評価にあたっては，教職科目については必ず「教育実習」を前提とした知識技能，思考，判断，表現力を評価基準の中心に据える。そして，特定の専門分野の知識を押付けないことを基本方針とする。成績評価はこれに従い，提出させた学習プリントの記述や授業中の発表における実際的，実践的な思考力，判断力，表現力をもとにした情意面での評価を中心にすることになる。そのため，定期試験よりは日常の授業におけるルーテインとしての課題レポート，授業での発表内容等を主な評価材料として活用する。

また，個々の課題レポートごとに必ず評価を行う。その際の評価を数値的な評価だけではなく，コメント記述による評価に重点を置く。受講生の気付きや学修成果に関するポジティブな内容に対して積極的にコメントを記述し，受講生の学びの意欲が継続，向上するように形成的な評価を行う。

また，この課題レポートの提出回数をできるだけ多く設けることで，評価の偏りや，評価の不適正化を低く抑えることができると考える。結果として全体としての評価の客観性を高め，評価の適正化，公正化を図りたい。

また，各課題レポートの内容が感想文に終わらないようあらかじめ受講生に評価方法と評価基準を開示する。具体的には，「講義内容との接点」，「論理の適正化」，「教育者としての視点」，「実現の可能性」の 4 つの観点を設けて評価することとし，評価基準をシラバスおよび各課題レポート，定期試験にも記載して，受講生への周知を図る。

また，課題レポートは時間を置かず適宜受講生に返却する。それにより学生個々の知識や認識を蓄積，定着させ，学修成果をより「教育実習」，あるいは「教職就職」に有効に影響するようにしたい。

4.　教育の成果

2023 年度後期「授業評価アンケート」による教員の授業評価は 10 科目中８科目で学内全科目平均を上回り，２科目が平均とほぼ同じであった。10 科目中 8 科目で全体平均を上回り、2 科目は平均よりやや低かった。学生の自己評価も同様の結果であった。昨年度もどちらも 10 科目中 8 科目が全体平均を上回っており、授業者への評価も学生の自己評価ともに肯定的で高い評価がここ数年続いている。

複数教員によるオムニバス授業を除いた個人担当科目の評価項目で，共通して高かったのが

③「配布資料、視聴覚教材、黒板使用の適切さ」⑥「教師の意欲や熱意を感じた」⑦「わかりやすく説明しており、学びやすかった」の３点であった。

ここ数年では②「話し方は明瞭で聞き取りやすい」，④「教員は学生の参加を促し，適切に対応した」，⑥「教師の意欲や情熱を感じた」が高かったので、教師の情熱や授業の分かりやすさといった，教員側の学生育成への思いや授業の準備が，肯定的に受け止められている傾向が続いているものと認識したい。

学生の自由記述にも「アドバイスをたくさんしていただき詳しく研究ができた」「研究に親身になった助言していただきありがとうございました。楽しかったです」「先生方が熱心にアドバイスされたので最後までしっかり活動できた」「プリントがとても見やすく、分かりやすかった」等があった。授業の分かりやすさと教員の熱意を示す評価がここでも確認できた。

実際の授業を振り返ると「カウンセリングマインドを用いた会話と傾聴」，「自己理解としての人物画」，「構成的グループエンカウンター」，「模擬学級指導」など，数多くの演習，アクティブラーニングを取り入れていた。また提出課題にも全ての科目で１人１人にコメント記述を書き，学習意欲を喚起すると同時に評価として返却した。これが授業評価項目の数値や自由記述に反映されているものと思われた。

一方，一昨年度まで「テキストや配布資料，教材は適切であった」については課題点であったが、昨年度、今年度と続けて全体平均以上の評価結果に好転した。今後もテキストの積極的かつ有効な活用を行い、授業改善課題として継続して意識して取り組んでいきたい。

5.　今後の目標

今後は，受講生の「授業評価アンケート」の自由記述に記載された「「教育実習に行く前に、授業参観に行くことができてとても参考になり、いい経験になりました」「アドバイスをたくさんしていただき詳しく研究ができた」「研究に親身になった助言していただきありがとうございました。楽しかったです」「楽しい内容が多かった。みんなと協力することが楽しかった。」等を貴重な意見として捉え，教え込むという姿勢ではなく，受講生のよさを認め、よさを丁寧に拾い上げながらながら授業を展開していくようにしたい。

また、教育の方法としては「映像」を用いた教材を積極的に取り入れ，受講生の意欲を高めながら，同時に必要な知識技能を習得させたい。また，「教育実習」「保育実習」を想定した実際的な授業内容の展開にも重点を置きながら，同時に教員採用試験問題を適宜授業に取り入れ，教職への就職の意欲の喚起にもつなげたい。特に教員採用試験合格を目指す受講生の意欲を高め，少しでもその利益となるようにしていきたい。

さらに，研修としての授業参観に止まらず，日常的に他の先生の授業参観を行い，そこから得た知見を参考にして，積極的に授業改善に取組んでいきたい。

6.　根拠資料

- シラバス
- 授業資料
- 2023 年度後期授業評価アンケート結果
- 2023 年度後期授業改善計画書
- その他（FWJConLine「教育相談」等，担当する教職関係コース等）